

## 1. 第19回男女共同参画フォーラムが行われました

2015年7月1日(水)、第19回男女共同参画フォーラムを開催した。今回は、4限・5限の時間帯を使い、「セクシュアルマイノリティ／私たち一学びのなかのダイバーシティ」をテーマに、宇都宮大学教員の良香織さんと、パフォーマンス・アーティストのイトー・ターリさんをお招きした。

良香織さんには「学校教育におけるセクシュアルマイノリティ」と題して40分ほどの講演をお願いした。セクシュアルマイノリティというテーマが“男女共同参画”や“男女平等”の“オプション”ではなく、人権そのものに関する主要なテーマであることをふまえ、LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)や性の諸側面(性別自認・性指向・身体の性)などについての基礎知識と、国内外での取り組みの経緯を説明していただいた。また、そうした性の多様性の中にさらに多様性があるといった点や、教員の側の対応の適否、マジョリティも当事者であるといった指摘など、授業実践の経験と家庭科教育の知見をふまえた実り多い講演となった。



イトー・ターリさんには、1996年にご自身がレズビアンであることをカミングアウトしたさいの作品「自画像」の縮約版を、ご本人の解説とあわせて視聴したあと、「セクシュアルマイノリティをパフォーマンスする」と題して、やはり40分ほどの講演をお願いした。1970年代から追求しているパフォーマンスという表現方法の意味やそこにいたる経緯、1990年代にジェンダー概念と出会ったことが画期的な意味をもったことなどを説明していただいたうえで、セクシュアルマイノリティを軸に制作された5作品「自画像」・「わたしを生きること」・「恐れはどこにある」・「虹色の人々」・「Rubber Tit」の内容と趣旨を解説していただいた。カミングアウトするさいに感じた自己肯定の喜びや、レズビアンという用語

が主催者によって事前検閲されたときの経験、女性器を表象することの意義。また、家父長制や異性愛中心主義・結婚制度のもつ諸問題や、石原前々都知事のホモフォビア発言への抗議、他のマイノリティへの視点など、日本社会におけるセクシュアルマイノリティのポジションについて多角的に考察していただいた。

さらに、今回のフォーラムでは新しい試みとして、男女共同参画支援室で協力してもらっている学生サポーターと講演者との座談会の場を設けた。学生サポーターからは、金澤良汰さん・佐藤紀鈴さん・井上敦司さんの3人に参加してもらい、フロアの来場者も含め活発な意見交換を行うことができた。良さんの講演との関係では、セクシュアルマイノリティをテーマにした授業実践のポイントや、「ゲイ」ネタ・「ホモ」ネタで“笑い”を取る生徒への対応(そのなかにはゲイ自身が自らの保身のために“笑い”に加わるケースも考えられる)、また、このテーマを教育実習で取り上げる困難などについて議論された。イトーさんとの関係では、社会の固定的なジェンダー秩序の問題や、「レズビアンの芸術」として一方的に規定される窮屈な状況、他のマイノリティの問題といかに架橋するかといった点などが議論された。



その他、“まずは女性の問題から”といった通念の存在をはじめ、日米比較の視点や現在の危機的な政治状況などについて有意義な討論を行うことができた。

今回の企画は、OPGE助成金制度の廃止にともない、全く新規の企画として準備したものである。平日かつ雨天という不利な条件ではあったが、幸い58名の参加者を得て盛会となった(本学教職員15名、本学学生28名、地域住民6名、その他9名)。協力していただいたみなさんには、この場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。

(文責 及川英二郎)

## 2. 平成27年度 第1回教職員交流会のご報告

2015年6月3日(水)に本年度第1回目の教職員交流会を開催しました。本交流会は教員・職員・学生の皆さんが子育て・介護・生活多様性・キャリア形成などについて気軽に交流や情報交換を行える場所を提供することを目的に、企画しています。今回は、学長を囲んで「ワークライフバランス」をテーマに大勢の方にご参加頂き、活発な意見交換が出来た交流会となりました。



はじめに、出口学長からご自身のワークライフバランスのとり方についてお話し頂きました。趣味の野菜作りやウォーキングなどでストレスを解消しながら仕事と生活のバランスを保っていることや、ご自身の子育ての話等の後、引き続き意見交換を行い、育児や「学芸の森保育園」に関する意見のほか、参加した学生からは、夜間保育への要望や、セクシュアルマイノリティに関する教育の重要性および科目設置の要望など、多様な意見が寄せられ、その一つひとつに出口学長が提案や見解を述べられました。

昼休みという短い時間でしたが、多様な人々が共に学び、働く環境づくりについて考える良い機会となり、より一層、ダイバーシティの推進に取り組む必要性を再認識した会となりました。

## 3. オープンキャンパスでの男女共同参画推進本部企画のご報告

7月25日のオープンキャンパスにおける男女共同参画推進本部主催の特別企画「理系女子(リケジョ)大歓迎!身の回りの科学から明日を拓こう2015!」では、本学教員によるミニ講演と本学理系女子との交流ブースを設けました。理系女子とは身の回りの科学を研究する女子学生全般であると考えており、交流ブースにはさまざまな分野の理系女子学生7人が常駐し、学生生活への質問、相談等に応じました。ミニ講演:相原琢磨先生「リケジョがスウガクすると…」では“一筆書き”、鴨川仁先生「ショコラを科学してみよう」では“チョコレート”をいろいろな側面からとらえることがテーマでした。昨年度に引き続き、大盛況であり、このような企画の必要性を再認識しました。



## 4. 学芸フロンティア科目の紹介

男女共同参画推進本部では、学芸フロンティア科目の授業運営にも関わっています。本年度の授業科目は以下の通りです。

### ◆学芸フロンティア科目C

男女共同参画推進本部では苦手意識を持たれやすい理数系科目に関する意識調査(「東京学芸大学の学生の理数系科目に関する意識調査報告書」2013.3.31)を実施し、その結果を踏まえ、2013年秋学期から全学対象の「学芸フロンティア科目C」を開講しました。本年度も多岐の分野の教員が、身のまわりの科学についてわかりやすく講義します。

<担当者>	<タイトル>
竹内 伸子	切ってみる
宮下 政司	運動・生活活動を科学する
宮地 淳一	パラボラアンテナ
南 道子	食の科学
西村 圭一	これからの理数教育について考える
田中心	結び目の話
藤本 光一郎	資源と環境
南葉 宗弘	記憶と学習の情報科学
中西 史	植物の底力
中野 幸夫	地球大気を守ろう
太田 伸也	身のまわりの数学
堂園 いくみ	花とむしの共生
西浦 慎悟	見上げれば月はある?

### ◆学芸フロンティア科目H

この授業は、ジェンダーとセクシュアリティについての基本的な概念や、それらをめぐる具体的な事例について多角的な視点で理解できるよう構成しています。現代日本社会において、女であること・男であることは、どのような意味を持っているのか。また私たちは、セクシュアリティをどのようにとらえ経験しているのか。こうした問題を、ダイバーシティ(多様性)の観点を視野に入れながら考えていきたいと思えます。

<担当者>	<タイトル>
及川 英二郎	ジェンダー、セクシュアリティ、ダイバーシティ
小西 公大	文化人類学とジェンダー
松川 誠一	労働とジェンダー
倉持 清美	夫婦とジェンダー
良 香織	性の諸問題・セクシュアルマイノリティと教育
山口 恵子	女性の貧困問題
尾関 幸	文化とジェンダー
鈴木 琴子	性と生殖に関する健康
濱田 豊彦	共生社会とダイバーシティ
苔米地 伸	教育とジェンダー
松田 恵示	スポーツとジェンダー・セクシュアリティ
吉谷 武志	学校におけるセクシュアルマイノリティの現状と課題

## 5. 平成27年度「女性の大学院生のための学術論文投稿支援制度」のご案内

東京学芸大学男女共同参画推進本部では、本年度も、女性研究者の育成に向けた取り組みの一環として、本学の大学院に在籍する女性が学術論文を投稿・掲載する際に要する経費の一部を補助する制度を実施します。

自らが筆頭者である論文が査読付きの学術誌に掲載されることが決定し、平成27年4月1日から平成28年3月23日までの期間にその論文の投稿・掲載に関する費用が生ずる場合が支援の対象となります。本制度の利用をご希望の方は、本文末のURLで申請要項をご確認の上、必要な書類を平成28年1月14日から2月16日までの間に東京学芸大学男女共同参画支援室にご提出ください(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/m2/sm09.html>)。

## 6. 「学芸の森保育園」、認証施設への移管について

(保育園についての質問が多いので、過去の記事を改編して再掲します)

「学芸の森保育園」は、東京学芸大学の男女共同参画推進本部の当初の取り組みの中で、2010年4月に、教職員や学生の子育ての支援を推進するために大学の福利厚生施設の事業内保育所として、また地域の子育て支援にも貢献することを目的に開所しました。保育は、保育サービス会社「サクセス」に委託して運営しました。運営の資金は、保育料以外に、厚生労働省21世紀財団からの補助金を得て、運営費の不足分を福利厚生として大学運営費からの支出でまかっていた。しかし、厚生労働省からの補助金も開園6年後に6割程に減額され、10年後に打ち切られること、さらに運営費交付金は今後も厳しい状況が続くと予想できることから、本学の大学運営費で事業内保育所として運営していくことは困難になることが予想されました。こうした状況を鑑み、改めて認証保育所の道を探ったところ、国の保育行政の充実の方向性も追い風となり、小金井市から許可がおりる見通しがたちました。

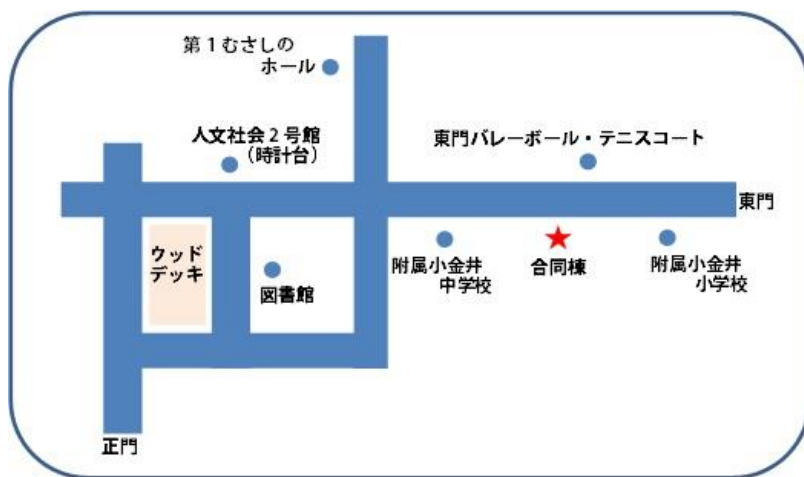
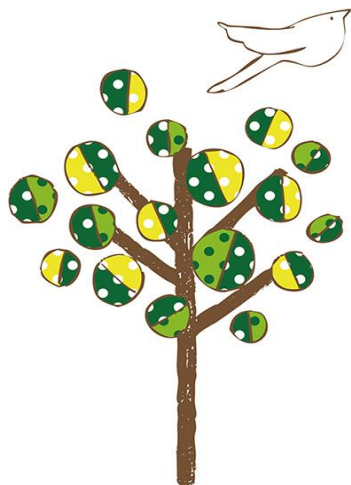


認証化に当たっては、保育サービス会社に委託するのではなく直接経営が条件となります。そこで、学長をはじめ多くの本学の教職員が運営に関わり、本学と関わりが深い「特定非営利活動法人 東京学芸大子ども未来研究所」が直接運営する形で認証保育所とし、運営を同法人に継承してもらうことを打診したところ、了解が得られました。

こうして、2013年12月1日に「特定非営利活動法人東京学芸大子ども未来研究所学芸の森保育園」が開所しました。定員を40名に拡大し、NPO関係者、保育士、保護者、東京学芸大学関係者からなる運営委員会を組織して運営しています。事業所内保育所ではなく認証保育所となったため、大学関係者も地域の方も入所資格は対等となっています。これまでの経緯も鑑み、今後は、男女共同参画本部は、東京学芸大子ども未来研究所と協力しながら、本学の子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。

(OPGE通信 vol.27 2013 改編再掲)

男女共同参画推進本部・支援室は  
合同棟の2階です。



### 東京学芸大学男女共同参画推進本部・支援室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1(合同棟2階)

TEL: 042-329-7894 E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp

URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/>